

なつみ

2014.01
第 82 号

発行元：社会福祉法人 県央福祉会 横浜市中山みどり園

226-0011 横浜市緑区中山町 395-2

Tel 045-931-8611 Fax 045-931-8626

発行責任者 熊井 さとみ



一年を振り返って

みどり園に赴任してから早いもので9か月がたちました。日々の活動の様子、また、全体外出・園外宿泊等様々なプログラム活動の様子を通して、利用者みなさんが楽しくみどり園に来て下さっているのではないかな・・・と感じています。利用者みなさんの笑顔にころから感謝しております。

私がこの9か月間で感じたのは、“言葉で表せないご本人の気持ちをくみ取ること”の難しさでした。特に言葉での表現が難しく激しい自傷や他害、こだわりといった、いわゆる行動障害のある人たちへは、その行動面の激しさゆえに支援者が行動抑制を行わなくてはならない場合があります。行動抑制を行う場合には、事前に「行動支援計画」を作成し、利用者さんおよびご家族の同意を得るのですが、できるならば「行動支援計画」が必要なくなることを願うばかりです。

先日、千葉県の施設で虐待による死亡事故が発生しました。大きく報道でも取り上げられたので皆さんもご存じでしょう。その後の千葉県の調査では、日常的な虐待があったのでは？と疑わざるを得ない事実があとから出てきています。他人事として聞き流してはいけない事件です。このような痛ましい事件が起こらないようにするために、私たちが利用者さんの“言葉で表せないご本人の気持ち（意思）をくみ取る力”や、“ご本人が落ち着いて過ごすことができるための支援技術”をブラッシュアップさせ、今後もご家族等と共に、利用者さんの最大の理解者になることを目指していきたいと考えます。また、私たち福祉従事者は、『障がいのある人の人権を率先して守る職業である』ということを念頭に置き、『いかなる理由があっても、障がいのある人への虐待はしない』ということを誓うことが必要です。このような事件が二度と起きないように、自分たちの問題として受け止め考えながら支援を行っていきます。

年末のごあいさつには、重たくなってしまいましたが、来年は明るいニュースが飛び交う年にしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

施設長 熊井さとみ



大掃除！！ 障子を張り替えました



みどり園では、年末のこの時期に、大掃除の一環として、和室の障子の張り替えをしています。利用者さんが古い障子紙をびりびりとはがし（この瞬間が皆さん一番楽しそう！）、職員が中心となって皆で障子紙を貼っていきます。毎年恒例になっているからか、少しずつ手順が分かり始めた方もいて、利用者さん同士で「端までちゃんととはがさないダメだよ」等と教え合いながら、今年も楽しそうに取り組んでいました。

きれいになった障子は部屋を明るくし、気持ちも晴れ晴れとします。徐々に和室や障子がある家が少なくなってきた今日この頃ですが、皆さんが活動で使う和室の障子をずっと大切にしていきたいと思います。



障子以外にも毎年各活動室では、利用者さん達が普段使っている部屋や机・椅子などを掃除しています。例年皆さん積極的に掃除し、きれいになった部屋を見て達成感や満足感を味わっているようです。今年も新年からまた新たな気持ちで過ごせるように利用者さんと力を合わせて掃除したいと思います。（山田皓子）

餅つき大会に参加しました

12/7（土）に、近隣にあるみどりの家で餅つき大会があり、活動室1～4の多くの利用者さんと一緒に出掛けてきました。多くの利用者さんが、午前中から「餅つき!!」と話すなど、楽しみにしている様子で、午前の活動にも意欲的に参加していました。

去年のスペシャルゲストは前田日秋さんでしたが、今回はプロレスラーの藤波辰爾さんが来られ、力強く餅をついていました。

利用者さんも笑顔で餅をつく様子を見つめ、他の人たちと一緒に「よいしょ」と大きな声で応援したり、つき終わると拍手をしたりと年末年始恒例(?)の行事を楽しんでいたようでした。



みどり園に戻るとつきたての餅を皆さん美味しそうに召し上がっていました。（野中隆宏）



カレンダーの原画展へ行ってきました

12/2 (火)、県央福祉会が主催した『ほっとアート絵画展』へ出かけてきま



した。これは県央福祉会が毎年作成しているカレンダーに選ばれた各事業所の創作物の展示会で、みどり園からは活動室1と2の創作物が選ばれました!!

見に行った利用者さんは、自分たちで作った物はもちろん、他の事業所から選ばれた物も興味深げに眺めていました。

来年度も選ばれるように、今後も利用者さんと一緒に楽しく創作に取り組んでいきたいと改めて思っています!!

(野中隆宏)



ここでぶれいく クイズ!

問題Ⅰ：七草粥(ななくさがゆ)に入れるのは、何の七草？

- ①春の七草
- ②夏の七草
- ③秋の七草
- ④冬の七草



問題Ⅱ：鏡もちはいつ頃から、鏡もちと呼ばれるようになったのでしょうか。

- ①鎌倉・室町時代
- ②安土桃山時代
- ③平安時代
- ④江戸時代





1月のスケジュール



月	火	水	木	金	土	日
		1 元旦	2 冬休み → →	3 → →	4 → →	5
6	7	8	9	10 新年会	11	12
13 成人の日	14	15 	16	17 園内宿泊 → →	18 開所日 → →	19
20	21	22	23 園内宿泊 → →	24 → →	25	26
27 	28	29	30	31		

~~~~~クイズの正解~~~~~

問題Ⅰ：①

「新春」という言葉がお正月を指すように、昔はお正月を春と呼んでいたと言われています。そこで、1月7日に食べる七草も、冬の七草ではなく春の七草と呼ぶそうです。春の七草とはセリ、ナズナ、御形（ハハコグサ）、はこべら（ハコベ）、仏座（コオニタビラコ）、すずな（カブ）、すずしろ（ダイコン）で、この7種の野菜を刻んで入れた粥を七草粥と言います。

問題Ⅱ：①

平安時代には「もち鏡」と呼ばれていました。鎌倉・室町時代になって「鏡もち」という名前になりました。古くから鏡は霊力を供えたものとして扱われていて、もちは神聖な力が宿る食べ物とされていました。その餅を神の宿る鏡に見立てて形作ったのが鏡もちだといわれています。

編集後記

明けましておめでとうございます！お正月はいかがお過ごしでしょうか？旧年は皆様と出会いとても充実した1年となりました。今年も私にとっても、皆様にとっても良い一年にできるよう日々の生活を大切にしていきたいと思います。また新年も、元気な皆様に会えるのをとても楽しみにしています。新年もどうぞ宜しくお願いいたします！（池谷明莉）